尿細管障害における尿蛋白量に対する尿β2MGの比率の検討

医薬情報の研究利用についてのごお願い

腎臓病は、尿細管障害と尿細管障害に分かれます。尿細管障害の場合、尿細管性尿蛋白が全尿蛋白量のどの程度に相当するのかは明確になっていません。そして、尿細管と尿細管の両者が障害を受ける可能性がある場合に、尿蛋白量が尿細管だけに説明できるのか、あるいは尿細管障害も併存するのかを知ることは、検査や治療を進める上で重要です。尿細管性尿蛋白では、β2-microglobulin (β2MG) や α1-microglobulin (α1MG) が知られているが、尿細管障害単独である場合もこれだけで尿蛋白質を説明することができません。おそらく尿細管性蛋白にはその 2 種類以外にも存在するものが影響していると考えられます。そこで実際の臨床で使用される尿 β2MG が尿細管性蛋白尿のうちどのくらいを占めるのかを知ることができれば、診断に、そして治療に役立つと考えました。

我々はこれまでに「小児の尿 β2MG の基準値（正常値）研究」を行い論文を発表（1）して実臨床で役立っています。しかし、これでは尿 β2MG が異常に高いかどうかを尿細管障害があるかどうかはわかりますが、尿細管障害の存在の有無については分かりません。そのために今回の研究を計画することとなりました。新たにデータを取得することなく診療報酬から既存のデータを後ろ向きに収集し検討したいと考えました。過去のデータをいただくのはเพชร病とループス腎炎の患者様だけです。この研究の調査期間は 2019 年 3 月までです。

この研究は、過去の診療記録を用いて行われますので、該当する方の現在・未来の診療内容には全く影響を与えるありませんし、不利益を受けることもありません。解析にあたっては、個人を直ちに特定できる情報とは切り離し無関係な識別番号を付した状態で収集させていただき、その後の調査のために、各施設内では症例対応表により識別番号と個人情報が対応付けされる場合がありますが、その場合も各施設内に個人情報が出ることはありません。

この研究に関してご不明な点がある場合、あるいはデータの利用に同意されない場合には、以下にご連絡ください。なお、本研究はあいち小児保健医療総合センターの倫理委員会の承認を受けており、各施設の施設長（院長）の承諾を得ております。また、この研究への参加をお断りになった場合にも、将来にわたって診療・治療において不利益をこうむることはありませんので、ご安心ください。


研究責任者
「あいち小児保健医療総合センター」 腎臓科 内科部長 藤田直也
TEL: 0562-43-0500